

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ ッダ アヤコ 氏 名 津田 綾子	職 名 助教 人間学部 子ども教育学科	取得学位 修士 (大学名) 宮城教育大学(取得年月)2022年3月
--------------------------	------------------------	--------------------------------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
・授業におけるICTの活用	2022.4 - 現在	UNIPA、Google Form、QRコード、動画等を活用し、ICTを用いた授業を行っている。受講学生からの評価も良好である。
・グループ学習の導入	2022.4 - 現在	担当教員からの一方通行の授業ではなく、学生自身が深く考えることができる機会を作っている。受講学生を数名ごとのグループに分けることで、学生個人の取り組みや課題に対する意識付けの深化につながると考えている。グループ学習の後には、発表の機会を設けることで、学生は積極的に取り組むことができている。
・授業における教材作成	2022.4 - 現在	プレゼンテーション用スライド、ワークシート、PDF など多様な教材を自作し、目的に応じて使い分け授業を実施している。スライドを作成する際は、視覚的に分かりやすいデザインを心がけている。これらの教材を活用した授業では、受講学生は積極的に授業に参加し課題に取り組んでいる。また、受講学生からの評価も良好である。
・模擬保育の実施	2023.4 - 現在	学外実習指導の授業では、保育場を想定した実演を行っている。現場での勤務経験を活かし、どのように保育を作り上げているのか、保育者がどのような配慮をしているのかを受講学生が考えながら模擬保育に参加できるように模擬保育を行っている。模擬保育に参加するだけでなく、学生自身の気づきをグループ学習へ繋げ、受講学生全体に共有することで保育について理解が深まるような授業を行っている。
・リアクションペーパーの活用	2022.4 - 現在	毎回の授業の終わりにミニットペーパーを用いて、学生が授業内容について振り返り要点をまとめる時間を設けている。また感想や疑問については次回の授業内でフィードバックし、他の学生が感じた・考えたことを受講学生全体で共有し、より多角的に授業内容を振り返ることができるよう配慮した授業を行っている。受講学生からの評価も良好である。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
保育者の専門的資質を育成するためのマルチモーダル分析用情報機器とアプリケーションの活用 —幼児の製作遊びにおける保育者の役割について—	単	2021年3月	宮城教育大学情報活用能力育成機構研究紀要 第1巻			19頁-27頁
幼児の社会的スキルと遊びの夢中度(2) —TEMとSRAを用いた混合研究法—	共	2020年5月	日本保育学会第73回大会集録	郷家史芸 藤田清澄 石田淳也 伊藤恵里子 保木井啓史 津田綾子		論文集 CD-ROM 907頁-908頁
幼児の製作場面における相互作用について —製作過程の幼児の「見る」行為に着目して—	単	2020年5月	日本保育学会第73回大会集録			論文集 CD-ROM 909頁-910頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
保育者が子どもの心情を理解するプロセス —TEMとNIRSによる混合研究法より—			2023年5月	日本保育学会第76回 熊本学園大学大会 口頭発表		

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本保育学会	会員	2019年8月
日本子ども社会学会	会員	2021年6月
日本乳幼児教育・保育者養成学会	会員	2023年9月
日本乳幼児学会	会員	2024年2月

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

【非常勤講師】 ・宮城教育大学「保育内容(表現)指導法」(2022.10－)
